大学改革この１年

第３期中期目標期間における
広島大学改革の歩み

－平成２８年４月～令和４年３月－

HIROSHIMA UNIVERSITY

◎　大学の改革に向けての方向性

○　ビジョン・将来計画の策定

☆　新しい長期ビジョン「SPLENDOR PLAN 2017」を策定【平成 29 年４月】

SPLENDOR PLAN 2017
　広島大学を取り巻く諸情勢の変化を謙虚にかつ客観的に俯瞰し、100 年後にも世界で光り輝く大学であるための今後 10 年間のプランを表明
＜広島大学のミッション（使命と役割）＞
　新しい平和科学の理念＝「持続可能な発展を導く科学」を確立し、多様性をはぐくむ自由で平和な国際社会の実現
＜広島大学の全体コンセプト＞
　「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界的な教育研究拠点の構築

☆　第４期中期目標期間において広島大学が果たすべき役割と進むべき方向性を示すものとして、**「第４期中期目標期間における広島大学のあるべき姿」**を策定【令和４年１月】

第４期中期目標期間における広島大学のあるべき姿
　～「平和を希求する大学」として 100 年後にも世界で光り輝くために～
＜理念と基本方針＞
　広島大学は、人類史上初めての原子爆弾が投下された被爆地広島に 1949 年に創設された国立の総合研究大学として、平和を希求する精神、新たなる知の創造、豊かな人間性を培う教育、地域社会・国際社会との共存、絶えざる自己変革、という理念５原則の下、世界から期待される役割をたゆまず省察しつつ、自由で平和な国際社会を実現し、人類の幸福に貢献することを使命とする。
　新しい平和科学の理念である「持続可能な発展を導く科学」を実践する世界トップクラスの教育研究拠点を構築し、地域社会と国際社会を繋ぐ知的拠点として、海外大学の誘致や Town（地域住民や地方自治体）と Gown（大学）が協働する「Town & Gown 構想」の展開により地方共創の主役を担い、多様性を育む自由で平和な国際社会の実現に貢献する「平和を希求しチャレンジする国際的教養人」を育成する。
　また、変動し続ける社会において、100 年後にも世界で光り輝き続ける大学であるために、教育・研究・社会貢献・医療・マネジメントのすべてで自主的・自律的な機能強化及び未来への投資を図る。研究者の自由な発想に基づく基礎研究を推進するとともに、地域から地球規模に至る社会課題の解決、とりわけ SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けて、カーボンニュートラルや Society5.0 等の実現に資する取組を強化し、恒久平和と一人ひとりの多様な幸せ（well-being）を実現するための新たな知と価値を常に自己創成する。

○　教育研究組織の整備

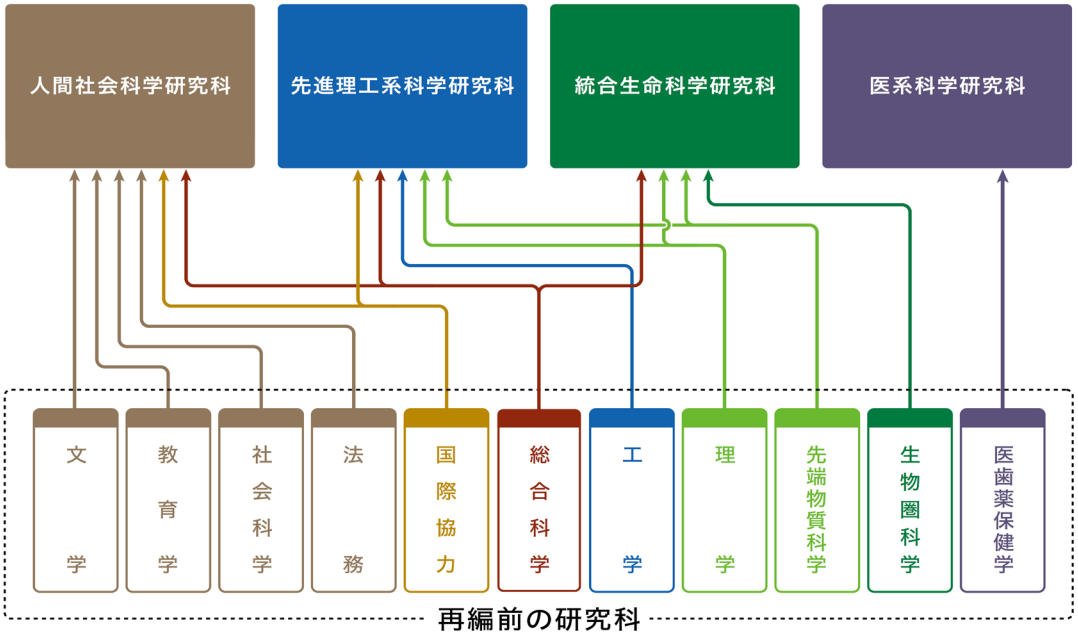
☆　教育学研究科に、これからの学校づくりの中心的役割を果たすリーダーを育成する**「教職開発専攻（教職大学院）」**を設置【平成 28 年４月】

☆　現代社会の多様なニーズに応えることのできるデータ分析とシステム開発のスペシャリストを養成することを目的に、国立大学で初めて、データサイエンス及びインフォマティクスを両輪とする**「情報科学部」**を設置【平成 30 年４月】

☆　入学定員の半数程度を占める様々な国籍の学生と日本人学生が共に学び、国際社会の抱える課題を解決することができる総合的知識と思考力、専門性を合わせ持つ、自主的・自律的な人材を養成する**「総合科学部国際共創学科」**を設置【平成 30 年４月】

☆　持続可能で平和な共生社会の実現に貢献する新たな知識や価値の創造、イノベーション創出を担う人材を育成することを目的として、学問領域を大きな括りでまとめ、学際的あるいは分野融合的な研究と教育が自由に進展するような大学院教育組織とすべく、これまでの **11 研究科を４研究科に統合・再編**することを決定【平成 29 年５月】

- 広島大学大学院の生物・生命系の４研究科７専攻（一部を含む）を再編し**「統合生命科学研究科」**を設置【平成 31 年４月】
- 広島大学大学院医歯薬保健学研究科を再編し**「医系科学研究科」**を設置【平成 31 年４月】
- 広島大学大学院の人文社会科学系・学際系の６研究科 16 専攻（一部を含む）を再編し、**「人間社会科学研究科」**を設置【令和２年４月】
- 広島大学大学院の理学・工学系の５研究科 17 専攻（一部を含む）を再編し、**「先進理工系科学研究科」**を設置【令和２年４月】



11 研究科を 4 研究科に統合・再編

☆　本学初の国際連携専攻（ジョイント・ディグリー・プログラム）となる**「広島大学大学院人間社会科学研究科広島大学・グラーツ大学国際連携サステイナビリティ学専攻」**及び**「広島大学大学院先進理工系科学研究科広島大学・ライプツィヒ大学国際連携サステイナビリティ学専攻」**を設置【令和２年 10 月】

○　３キャンパスの機能強化に向けた取組

☆　広島大学創立 75 周年記念事業構想として「広島大学が躍動し広島の地を活性化させる基金～広島大学の取組構想～（令和元年５月）」に掲げている取組を推進するため、法学部と大学院人間社会科学研究科人文社会科学専攻法学・政治学プログラムを東広島キャンパスから東千田キャンパスに移転し、**東千田キャンパスを「法曹養成を核とした人文社会科学系の新たな拠点」、霞キャンパスを「医療人養成拠点」**として整備することを決定【令和３年６月】

☆　東広島市から５億円の支援を受け、東広島キャンパスに国際交流拠点施設**「広島大学フェニックス国際センター ミライ クリエ」**を開館し、地域、企業、研究機関、大学などの出会いと協働の場、グローバルな頭脳循環、交流ネットワークの形成によるイノベーション創出に向けた取組を開始【令和３年 10 月】

広島大学フェニックス国際センター　ミライクリエ

◎　教育に関する取組

○　平和を希求し、チャレンジする国際的教養人の育成

☆　教養教育の一環として、スポーツ、芸術、科学、ビジネスなど各界で活躍されているリーダーによる講演**「世界に羽ばたく。教養の力」**を開始（平成 30 年度以降は全学部必修科目「大学教育入門」の一環として開講）【平成 29 年４月～】

☆　国際的教養人に必要となる英語力、リーダーシップ力や平和への理解等を養うためのカリキュラムを履修し、海外留学を通して国際的教養力を育むため、特定プログラム「Global Peace Leadership Program」を開設【平成 29 年４月～】

☆　世界を牽引するゲノム編集研究者の育成を目指す**「ゲノム編集先端人材育成プログラム」**が、中国四国地方で唯一、文部科学省**「卓越大学院プログラム」**に採択【平成 30 年 10 月】

☆　各国政府代表者や在京大使による平和をテーマにした講演会**「ピース・レクチャー・マラソン」**を開始（５回開催（令和４年３月末時点））【平成 30 年 10 月～】

☆　大学院再編に伴い、「持続可能な発展を導く科学」の創出や、それによる社会貢献への意欲を高め、学際性や協働に必要なコミュニケーション能力等を涵養するため、**大学院共通科目**を導入【平成 31 年４月】

カーリッド・アテフ・アブデル・ガッファー
エジプト高等教育大臣・科学研究国務大臣による
第１回ピース・レクチャー・マラソン

○　教育成果に係る評価

☆　文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業（トップ型）」の平成 29 年度、令和２年度中間評価において「A」評価を獲得【平成 30 年２月、令和３年３月】

☆　「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査ランキング」（日本経済新聞社・日経 HR 調査）において、**「対人力」で全国１位、総合ランキングで５位**にランクイン【令和元年６月】

☆　イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education」が公表した、学生の学びの質や成長性に焦点をあてた「世界大学ランキング日本版」で、2021 年、2022 年の**２年連続で国内 10 位**にランクイン【令和３年３月、令和４年３月】

☆　「面倒見が良い大学ランキング 2021」（大学通信調査）において、**全国８位**にランクイン【令和３年 10 月】

○　その他教育に関する取組

☆　本学の教育の取組や学生生活、留学、就職・キャリア支援などについてご理解とご意見をいただくために、毎年４～６か所の地域を訪問し、学部生の保護者・ご家族を対象に保護者向け**「広島大学地域懇談会」**を開催【平成 30 年 10 月～】

☆　学生の起業活動や集会、自習など多目的に使用できる施設として、福山通運株式会社および公益財団法人渋谷育英会の寄贈を受け、ヤマネホールディングス株式会社が施工した**「福山通運小丸賑わいパビリオン」**をオープン【令和元年 12 月】

☆　新型コロナウイルス感染症の影響でアルバイトがなくなるなど、収入が激減して、生活に困窮し、日々の食べ物にも困り、支援を必要としている学生・留学生に対して、１ヶ月３万円（複数回受給可）を支給する本学独自の**応急学生支援金制度**を全国に先駆けて設立し、同時に支援金の寄附募集を実施（寄附総額 66,306 千円）【令和２年４月～６月】

☆　応急学生支援金制度により、**延べ 1,820 人へ給付**【令和２年４月～令和４年３月】

☆　With/After コロナを踏まえた新しい生活様式に根差し、新しい常識（New Normal）の中で学業・学生生活に勤しめる環境づくりを行っていくため、クラウドファンディング「負けんけんね！広大『広島大学学生応援プロジェクト』」を開始（寄附総額 3,110 千円）【令和２年６月】

☆　新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、自宅で過ごす人が多くいる中で、広島大学の「知」を通じて「学び」や様々なことに興味をもってもらうきっかけとなることを目的として、本学教員が授業や研究内容等について講義を行う**「知を鍛える - 広大名講義 100 選 - 」**を YouTube で公開（令和４年３月時点制作数：209 本）【令和２年８月】

☆　コロナ禍において新入生が充実した大学生活を過ごせるよう、保護者・ご家族にコロナ禍における本学での教育の取組や学生支援等を紹介し、ご理解をいただくために、学部新入生・２年次生及び大学院新入生の保護者・ご家族を対象に保護者向け**「広島大学オンライン懇談会」**を開催
【令和３年６月～】

☆　新型コロナウイルス感染症拡大により、経済的に困難な状況にある学生たちに、健康でおいしい朝食を届ける 50 円朝食プロジェクトにおいて、第一目標 1,500 千円を大きく上回る 4,365 千円の支援を受けて目標達成（**朝食 14,700 食を学生に提供**）【令和３年９月】

◎　研究に関する取組

○　優れた研究人材の確保・育成

☆　ノーベル賞受賞者などの世界トップレベルの研究者による講演会**「広島大学 知のフォーラム」**を５回開催【平成 28 年 11 月、平成 29 年４月、平成 31 年１月、３月、令和３年９月】

☆　文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の実施機関に採択され、情報・AI、量子、マテリアル、サステイナビリティ学の分野に入学する優秀な博士課程後期学生 53 人をリサーチフェローとして認定し、毎年度生活費相当の研究専念支援金 180 万円と研究費 30 万円のフェローシップの実施を行う**広島大学大学院リサーチフェローシップ制度**を開始
【令和３年４月】

☆　国立研究開発法人科学技術振興機構「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に採択され、国際社会の持続的な発展に貢献できる博士人材の育成を推進することを目的として、**「広島大学創発的次世代研究者育成・支援プログラム」**を創設し、採択された 40 大学中で 10 番目（**中四国で唯一 100 人超**）の支援者数となる 199 人の学生の支援を決定【令和３年９月】

○　卓越した研究拠点の形成

☆　**感性脳科学**

・「脳・こころ・感性科学研究センター」を設置し、脳科学を中心に、医学、工学、情報科学、人文社会科学など、幅広い分野の視点から融合的に探求し、「感性科学」の学問体系の確立に向けた取組を開始【平成 30 年 10 月】

・「Awareness Music による『こころの資本』イノベーション」が、ムーンショット型研究開発事業の研究開発プロジェクトに採択【令和４年３月】

☆　**ゲノム編集**

・ゲノム編集分野における教育、研究及び産学連携の拠点化に向け、「ゲノム編集イノベーションセンター」を設置し、ゲノム編集先端人材の育成、ゲノム編集国産技術及び遺伝子改変新手法の開発、多くの企業との共同研究によるイノベーションや地域産業創出等の取組を開始【平成 31 年２月】

・「Bio-Digital Transformation（バイオ DX）産学共創拠点」が、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の令和２年度「共創の場形成支援プログラム（COI－NEXT)」育成型に採択され、令和３年度本格型に昇格【令和２年 12 月、令和４年２月】

☆　**デジタルものづくり**

・本学が参画し広島県が申請した「ひろしまものづくりデジタルイノベーショ創出プログラム」が、内閣府の「地方大学・地域産業創生交付金」の対象事業に採択【平成 30 年 10 月】

・地域において喫緊の課題となっているものづくりのデジタル化に対応するため、「デジタルものづくり教育研究センター」を設置し、モデルやデータを活用して材料開発を行う「材料モデルベースリサーチ」や、車や生産プロセスの制御等を行う「データ駆動型スマートシステム」の研究開発、人材育成等の取組を開始【平成 31 年２月】

○　研究開発事業

☆　新型コロナウイルスに対する研究について、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「ウイルス等感染症対策技術開発事業」において、**全国唯一、４分野（実証、改良、有効性確認、基礎研究）全てで採択**【令和２年６月、８月】

○　産学連携

☆　広島地域を中心とした新たなビジネスモデルや付加価値の創出を図り、地域経済の活性化に貢献するために、本学を中心に、地域の大学が保有する人材育成、研究開発及び新産業創出等に係る様々な知見を統合した次世代型産学官金連携支援コンソーシアム**「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」**を発足【令和３年 10 月】

☆　「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」事業の一つとして、本学に在籍する学生の持つ自由で創造的なアイディアや起業への想いを具現化する取組**「広島大学・学生発スタートアップチャレンジ」**を開始【令和３年 12 月】

「学生発スタートアップチャレンジ」ヒアリング審査

○　研究に係る評価

☆　文部科学省「研究大学強化促進事業」の中間評価において「A」評価を獲得【平成 29 年 11 月】

○　その他研究に関する取組

☆　研究の国際展開力・発信力を強化するため、ライティング・アドバイザー・フェローによる英語論文執筆支援を開始【平成 28 年 11 月】

☆　SDGs の観点から、本学の特色ある教育、研究、社会貢献、大学運営に関して取組・実績を報告する**「SDGs 報告書」**を発行【令和２年１月～】

☆　「放射線災害・医科学研究拠点」、「生体医歯工学共同研究拠点」、「放射光物質物理学研究拠点」について、令和４年度からの共同利用・共同研究拠点として認定更新【令和３年 10 月】

◎　社会貢献に関する取組

○　Town & Gown 構想

☆ 広島大学と東広島市が共同提案した「アカデミック・エンタープライズが駆動するサステナブル・ユニヴァーシティ・タウン構想」が、文部科学省の支援施策「令和元年度科学技術イノベーションによる地域社会課題解決（DESIGN-i)」に採択【令和元年７月】

☆　米国の大学立地都市を参考に、東広島市と本学が協働し、官学一体となって持続可能で魅力的なまちづくりに取り組む「Town & Gown 構想」の実現に向けた取組を開始【令和２年４月】

☆　**「カーボンニュートラル×スマートキャンパス 5.0 宣言」**において、温室効果ガス排出実質ゼロを目指すカーボンニュートラルの実現と、進化を続ける情報通信技術を活用した「スマートキャンパス」の構築を 2030 年までに行うことを宣言【令和３年１月】

☆　東広島キャンパスのスマート化・グリーン化や東広島市及びその周辺地域での Society5.0 やスマートシティの実現を目指すとともに、SDGs の実現も目指した新たな産学官連携モデルを構築することを目的として、以下３件の包括的連携協定を締結

・東広島市・住友商事株式会社【令和３年１月】
・東広島市・ソフトバンク株式会社【令和３年７月】
・東広島市・株式会社フジタ【令和３年７月】

東広島市，住友商事株式会社との協定締結

☆　スマートシティの実現に向けて、東広島キャンパスをフィールドとした自動運転シャトルの運行実証実験を開始【令和３年３月】

☆　本学と東広島市との間での Town & Gown 構想を推進する基幹組織として**「Town & Gown Office」**を設置【令和３年 10 月】

☆　東広島キャンパスを活用し、スマートキャンパスまたはスマートシティの形成に資する活動を行い、その成果を周辺地域に社会実装することでイノベーションを創出することを目的として、東広島市と業種の異なる８社の民間企業とともに、**「広島大学スマートシティ共創コンソーシアム」**を設置【令和４年３月】

○　平成 28 年４月熊本地震への対応

☆　大学病院から、DMAT（災害派遣医療チーム）に２班８人を派遣【平成 28 年４月】

☆　活断層調査及び被災状況調査を実施【平成 28 年４月～平成 29 年４月】

☆　熊本大学から罹災学生の受入れと宿舎の無償提供（特別研究学生１人を国際協力研究科で受入れ）【平成 28 年４月】

☆　罹災した世帯の学生への相談窓口を開設（39 人の学生の平成 28 年度前期分の授業料を免除）【平成 28 年４月】

○　平成 30 年７月豪雨（西日本豪雨）への対応

☆　学術研究機関の立場から被災状況の調査と復興・まちづくりの提言を行う、地域貢献の使命を果たすため、学内の防災研究分野の専門家を集めた「広島大学平成 30 年７月豪雨災害調査団」を設置【平成 30 年７月～令和元年７月】

☆　大学病院から、DMAT（災害派遣医療チーム）など、医師、看護師ら延べ 260 人を、97 日間派遣し、被災地での医療支援活動を実施【平成 30 年７月】

☆　学生ボランティア団体「オペレーションつながり（東広島)」や「COCO（霞)」を窓口として、延べ 1,300 人以上の学生がボランティア活動を実施【平成 30 年７月～９月】

○　新型コロナウイルス感染症への対応

☆　国と地元自治体の要請に応えて、大学を拠点とした新型コロナウイルスのワクチン大規模接種を東広島市と共同で開始し、本学の学生・教職員のほか東広島市内の学校教職員やエッセンシャルワーカー等 16,000 人以上を対象にワクチン接種を実施【令和３年６月～９月】

新型コロナウイルスワクチン接種会場

○　社会貢献に係る評価

☆　国連の SDGs の枠組みを用いて大学の社会貢献の取組を可視化する「Times Higher Education 大学インパクトランキング 2020」において、SDGs17 項目のうち５項目（SDG３（すべての人に健康と福祉を）、SDG６（安全な水とトイレを世界中に）、SDG９（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任つかう責任））で**世界トップ 100 入り**し、３項目（SDG４（質の高い教育をみんなに）、SDG６、SDG11）で**国内１位**、総合スコアでも**国内４位**にランクイン【令和２年４月】

☆　「Times Higher Education 大学インパクトランキング 2021」において、前年に続き SDG４、SDG６、SDG11 で**国内１位**となったほか、新たに SDG５（ジェンダー平等を実現しよう）、 SDG８（働きがいも経済成長も）でも**国内１位**を獲得し総合スコアでも北海道大学、東北大学、筑波大学、東京大学、京都大学、岡山大学と並び**国内１位**にランクイン【令和３年４月】

◎　国際戦略に関する取組

○　世界とつながる国際的ネットワークの構築

☆　アメリカのアリゾナ州立大学（ASU）と、国立大学では初となる外国大学の海外キャンパス**「ASU／サンダーバードグローバル経営学部―広島大学グローバル校（グローバル・イニシアティブ）」**を広島大学内に設置することについて、包括的な覚書を締結【令和２年７月】

☆　ASU／サンダーバードグローバル経営学部―広島大学グローバル校を広島大学の**東広島キャンパス内に設置**し、ASU と本学をオンラインで結んだ授業をスタート【令和２年 10 月】

ASU／サンダーバードグローバル経営学部―広島大学グローバル校の設置について文部科学大臣へ報告

☆　中国の首都師範大学と新たな覚書を締結し、実践的な日本語運用能力向上のための教育を実施するため、首都師範大学内に**「森戸国際高等教育学院北京校」**を設置【令和３年４月】

☆　中国国内の協定校に在学する学部生にオンラインでリアルタイムの講義を行い、高水準の教育を提供する「森戸国際高等教育学院日本語・日本文化オンラインプログラム」を新たに開講【令和３年 12 月】

☆　海外拠点（センター）を９ヵ国/地域 11 拠点から **15 ヶ国/地域 23 拠点**に拡大【令和４年３月末】

☆　大学間国際交流協定締結数を 173 協定から **389 協定**に拡大【令和４年３月末】

○　国際機関・海外政府機関との連携強化

☆　インドネシア ジャカルタの副大統領公邸において、ムハンマッド・ユソフ・カッラ副大統領と越智学長が、これからの両国間の学術交流の拡大（150 人を超えるインドネシアからの学生受入れやインドネシア政府奨学金（LPDP）受給者の派遣先が東京大学・京都大学に限定されたこと等）について会談【平成 31 年２月】

☆　横浜で開催されたTICAD７（アフリカ開発会議）の会場において、アブドゥルファッターハ・エルシーシ エジプト大統領と越智学長が、これからの両国間の学術交流の拡大（大統領プロジェクトとして新設予定のガララ大学へのカリキュラム作成協力や教員派遣・年間約100人のエジプトからの学生受入れ等）について会談【令和元年８月】

○　その他国際戦略に関する取組

☆　新たな留学生受入れプログラム「広島大学森戸高等教育学院３＋１プログラム（現：**広島大学森戸国際高等教育学院３＋１プログラム**）」を開始

第一期生26人【平成28年10月】、第二期生90人【平成29年10月】
第三期生146人【平成30年10月】、第四期生159人【令和元年10月】
第五期生44人【令和２年10月】、第六期生56人【令和３年10月】

☆　日本と台湾間における学生や研究者交流の拡大に向けた議論を深めるため、「第２回日台大学学長フォーラム」を、広島大学が開催校として開催【平成30年６月】

☆　イノベーションの創出や国際化の推進、交通アクセスの向上、海外からの研究者や留学生等の生活環境の向上などについて、連携して取り組んでいく「国際的研究拠点東広島の形成に関する協定」を東広島市と締結【令和元年10月】

☆　日本とインドネシアの大学間交流の更なる深化を目的として、「第５回日本・インドネシア学長会議」を、広島大学が幹事校となり開催【令和元年10月】

☆　新型コロナウイルス感染拡大状況を踏まえ、海外派遣を伴わないオンラインでの国際交流教育プログラム**「e-START/START＋プログラム」**を新設（令和２年度：７コース　参加者 61 人、令和３年度：21コース　参加者143人）【令和２年８月】

◎　病院に関する取組

○　質の高い医療の提供

☆　中国・四国地方の病院では初の手術支援ロボット**「ダヴィンチ」**の２台体制を本格稼働

【平成29年１月】

☆　「治る」病態へ変化しつつあるリンパ浮腫の患者を救うため**「国際リンパ浮腫治療センター」**を開設【平成29年４月】

☆　広島大学病院が、広島県におけるアレルギー疾患医療の中心的役割を担う**「広島県アレルギー疾患医療拠点病院」**に指定【平成31年２月】

☆　**「国際医療支援部」**を設置し、外国人受診者を受け入れるための院内外との連携体制の構築及び院内環境の整備や安心して受診できる医療提供体制、病院スタッフのサポート体制を充実

【令和２年５月】

☆　渡航受診者受入れに意欲のある病院の受入体制や取組、渡航受診者を受け入れる診療科において提供する診断・治療の実績について、所定の基準を満たす病院として、一般社団法人Medical Excellence JAPANから**「ジャパン インターナショナルホスピタルズ」**に推奨【令和３年１月】

☆　３台目の手術支援ロボットとして国産初の手術支援ロボットシステム**「hinotori（ヒノトリ）サージカルロボットシステム」**を導入し、前立腺がん摘出手術を実施【令和４年３月】

国産初の手術支援ロボットシステム
「hinotoriサージカルロボットシステム」

☆　外国人受診者に、よりニーズに合った適切な医療が提供できるよう、**医療通訳サービス「my mediPhone（マイメディフォン）」**を導入【令和４年３月】

○　地域医療への貢献

☆　近隣県を含めた地域の医療機関との連携強化を図るため、地域の病院等の協力のもと、寄附講座を７講座設置【令和２年４月～】

☆　広島大学・広島大学病院と広島県が連携し、新型コロナウイルス感染症に関する官学連携による検査研究体制構築事業を実施し、効率的な検査体制の構築や県内の感染状況を把握するための疫学調査や重症化因子等の学術検証を通じて広島県の新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に貢献【令和２年５月～】

◎　管理運営に関する取組

☆　学長のリーダーシップの下で全教員が大学の教育研究に取り組む新たな体制として、全学教員組織である**学術院**を設置し、全学人事委員会による**教員人事の全学一元管理**を開始【平成 28 年４月】

☆　本学の教職員・学生から大学運営に関する提案・提言を聴き、教育研究活動の質の向上や大学運営の改善に結びつけるための**「学長オフィスアワー」**を開始【平成 28 年 11 月】

☆　若手研究者を雇用することにより、教育研究の活性化を図るほか、その能力を育成することを通じて学術界の発展に寄与することを目的として、**「育成助教」**枠を設定【平成 30 年 11 月】

☆　教員の自己推薦による申請を可能とする**学内昇任制度**を創設【平成 31 年２月】

☆　学生、役員、職員、同窓生、その他本学関係者の連帯感と愛校心を涵養するとともに、本学の魅力・情報発信力の向上につなげるため、**「広島大学フェニックスマーク」**及びマスコットキャラクター**「ひろティー」**が誕生【令和２年２月】

☆　採用後５～７年後にテニュア審査を行い審査に合格すれば上位職へのポストアップも可能な**新たなテニュアトラック制度**を導入し、「准教授」「講師」「助教」で採用される教員へ原則適用開始【令和２年４月】

☆　教員の高い意欲を維持し充実させるとともに、安定的に教育研究に専念できる教育研究環境を従来どおり確保することを目的として、全学統一の**新たな教員個人評価制度**を導入【令和３年４月】

☆　国立大学としての使命を果たすための活動の基本原則として、**広島大学憲章**を制定【令和３年 12 月】

☆　社会からの負託に応えるために、本学の全構成員が常に意識し、実行すべき指針として、**広島大学行動規範**を制定【令和３年 12 月】

「大学改革この１年」は、
直近１年間の広島大学の改革の歩みを記していますが、
今回は、第３期中期目標期間最終年度であることから、
６年分の歩みを記しています。

大学改革この１年
～第３期中期目標期間における広島大学改革の歩み～

令和４年１２月 総合戦略室作成